

# 日本災害看護学会先遣隊 台風第19号活動報告（長野県）

2019年10月19日(土)

活動メンバー:小原真理子・長谷川美智子

## 1. 活動の概要

活動日時:令和元年 10月19日(土)7:45~16:00

活動場所:長野県長野市豊野町 小学校体育館避難所

活動目的:日本災害看護学会先遣隊活動

活動日の状況:台風第19号による千曲川の堤防決壊と越水による河川の氾濫の被災後、8日目

## 2. 活動の実際

時間	活動の内容
8:10	・長野市保健所到着
8:30	長野市災害医療保健会議に参加予定のため保健所で待機、9:00 から長野市災害医療保健会議に参加。
9:00	○長野市災害保健医療調整会議に参加
10:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急セットを各避難所に配置予定</li> <li>・豊野西小学校・長野市民病院支援看護師(被災地内)派遣日程のお知らせ 段ボールベッド 250 台設置終了後、クレームは医師の丁寧な対応により数名のみ 残薬少ない方・発熱の方・タクシー券配布により受診</li> <li>・豊野区事務所・区長の疲弊再度報告 清潔面の支援が必要 ごみ処理がされていない ☞現状の把握ができていない。近くの避難所に集約予定。</li> <li>・長野運動公園・発熱患者あり 隔離対応 感染症患者報告 疥癬ではなく乾癬であったため隔離の必要なし 避難住民が移動するよううわさが流れている☞集約の予定なし</li> <li>・北部スポーツレクリエーションパーク 車中泊患者なし 救急患者の搬送あり 今後医療従事者の夜間支援体制について検討が必要</li> <li>・本日夕方ミーティング:16:30 予定 ☞本学会に先遣隊としての役割確認の連絡・・・地域の支援者に支援をつなぐ役割であることを確認</li> </ul>
11:20	・○小学校到着
15:50	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援団体に看護師ボランティアとして参加</li> <li>・11:30 支援団体統括医師より 住民アセスメント用紙で一人一人に聞き取り(18 日段ボールベッド設置後、生活環境の変化に関する調査含む)の指示あり、健康相談担当医師より訪問順番を聞き調査開始</li> <li>・40 代男性 家族が夜間大声を出すような言動あり 生活の場所変更方法について相談あり ☞担当医師・行政職員に連絡</li> <li>・70 代男性 呼吸器疾患あり 長距離歩行による呼吸困難、トイレ立ち上がり動作時の下肢脱力感あり ☞ 担当医師連絡</li> <li>・70 代男性 消化器疾患あり 排泄場所の対応について訴えあり 皮膚トラブルあり ☞ 支援団体として参加の通院病院看護師に生活上の困りごと・皮膚状態について情報提供</li> <li>☆住民のアセスメント調査の聞き取りと記載に早くても 30 分はかかるが、話を聞く姿勢をもち関わることで、被災体験や困りごとについての語りが聞かれる</li> <li>・12:45-13:20 避難所支援チームミーティング参加</li> </ul>

	<p>ラップポン(トイレ)の配置場所の説明</p> <p>☞現状の支援団体 20 日撤退・別の支援団体に引き継ぎ</p> <p>14:00 今までの支援団体は、支援者代表会議にチームから 1 名は出席するようにとのこと</p> <p>・14:00-15:30 支援者代表会議に出席する。</p> <p>☆通学道路の安全性が復旧せず児童が徒歩で通学できる状態ではない</p> <p>☆今後の支援内容について医療重視というよりは、生活環境を整備して「災害関連死」を予防する時期に来ていることを支援関係者で共有</p> <p>☆自己紹介:地元大学であるため現状を把握し、必要な支援を検討していきたいことを報告</p> <p>☞団体の変更について報告あり 今後の支援内容における役割分担の検討</p> <p>・次回会議:明日:14:00 校長室</p>
15:45	支援団体に活動終了の挨拶
17:00	長野市災害医療保健会議に参加予定も避難所から保健所まで渋滞

### 3. 課題・所感

学会先遣隊として地域の支援者につなぐ役割を達成するための今回の課題は、地域の支援者が情報を得る場がなく、生活支援ニーズを把握できない状況の中で支援活動目的を明確化することが求められ、健康と生活を守るためにどのような方法で活動を提供できるのかを考える状況でなかったと推測できた。そこで、フェーズが移行し支援団体が移行する時期に、生活支援へのニーズが不明確な状態において、支援を引き継ぐ団体が次フェーズの支援目的を共有し、各支援団体が支援できる方法の話し合いを必要とした。災害急性期から災害亜急性期に移行する時期は疾病構造も外傷に対する治療から感染予防に変化し、生活環境の整備が求められる。実際に避難所の報告で発熱や下痢などの感染症の報告があり、感染予防対策が緊急課題に挙げられた。また、段ボールベッド配置によるコミュニティの変化に対する聞き取り調査も求められ、地域看護の役割を明確化することができた。今後は、フェーズ移行期の役割を遂行するために備えの時期から必要な項目を検討していく必要がある。そして、医療が中心となる災害急性期から看護の視点で必要な情報を得ることは、「災害関連死」予防活動に必須となる生活支援の活動につながることを明確化になると考えることができた。そのためには、経験知を積み上げるために現場に行き活動内容を丁寧に振り返りながら、記述することの必要性を認識する活動であった。

今回は、災害急性期に災害現場に入り、学会から地元大学に生活支援と健康を守る支援活動を引き継ぐための情報を得ることが活動目的となった。災害発災時には、災害超急性期から救助を目的に活動を行っている他職種・他機関や住民がいる。そして、フェーズの変化に対応した支援活動を行うためには、他職種・他機関の役割を把握し、自らの役割を明確に明示し活動の場を得ていく必要がある

今回、10月14日～19日の長野県担当先遣隊の主な活動をまとめる。

- ① 後半、長野市災害医療・保健調整会議に参加し、被災地外から支援活動を展開している他職種・他機関の報告を通して何が今問題で、何をすべきか、今後予測される課題等についてアセスメントし、学会への速報に繋げた。
- ② 前半、飯山赤十字病院を訪問、災害発生時から対応した活動を聞き、水害時における地域基幹病院の初動の取り組みについて速報に繋げた。
- ③ 同じく飯山市、立ち上がった直後のボランティアセンターを訪問、多くのボランティアの健康管理として、以下の支援活動を行った。
  - ・泥のかき出し、家具の洗浄等に取り組むボランティアへ健康を中心とした送り出しのオリエンテーションを作成し、何回に分けオリエンテーションを行った。
  - ・ボランティアの帰還時、泥にまみれた長靴の消毒に必要な消毒剤、手洗い・うがいに必要な衛生材料を購入、場所作りも行った。これは地域におけるボランティア活動の支援に繋がった。
  - ・ボランティアが活動している地区を巡回、住民やボランティアへの声かけ、傷の手当を行った。
- ④ 後半、長野市に設置されている清泉女学院大学看護学部のボランティア活動を支援した。ボラセンが立ち上がる前か

ら学生、教員が特に被害が酷い穂保地区の泥のかき出しや住民の健康相談の支援活動に対し、泥のかき出し用の手袋を提供した。また活動についてお互い情報交換を行った。

- ⑤ 豊野町避難所において取り組んでいるNPO 医療チームの活動に協力した。特に段ボールベッド 260 個の作製とその後位置決め、住民の健康チェックにも協力した。
- ⑥ ⑤の避難所の夜間時における健康管理、健康相談等に、市からの要請があり、清泉女学院大学看護学部の活動に繋がった。